

速報第3900号 R7.2.4発行 総務課 扱	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	7年 文教委員会 2月4日	質問者	広田 まゆみ 委員 民主・道民連合 (札幌市白石区)
質 疑 ・ 質 問		答 弁		担 当 課
<p>一 北方領土を考える弁論大会などについて</p> <p>(一) 道立高校における北方領土学習について</p> <p>1月18日に、札幌市において、39回目を迎える「北方領土を考える」高校生弁論大会が開催されました。一般公開をされているもので、私も、参加をさせていただいたのですが、素晴らしい高校生のスピーチ、弁論がありまして、もっと多くの方に聴いていただけたらと思ったところでした。弁論大会参加への取組以外にも、多くの高校生が北方領土について興味・関心をもち、その歴史などについて正しく学ぶ取組が重要であると考えていますが、道立高校では、どのような北方領土学習が行われているのか伺います。</p> <p>(二) 高校における今後の北方領土学習について</p> <p>高校生のスピーチを聞いていて、特徴的なことの一つは、SNS、ネットで発信すれば若者世代に繋がるのではないかという、そういうご意見も多く、それも非常に重要なのですけれども、それだけではそんな簡単なことではないし、本質が伝わらないのではないかという危惧もしたところがございます。今、答弁の中にもありましたけれども、残念ながら、この弁論大会では入賞は逃したんですけども、根室高校からの出場者の方が、北方領土の元島民の皆さんのお話や歴史事実をしっかりと学んだ上で、高校生自らが、語り部としても活動しているというお話にも大変感銘したところです。人に伝える、教えるということが、一番の学びになる、これは通説としても言われていますが、高校生のお話を聴いていて、高校生が語り部の活動を通して、自分も社会を変えていく一人になりたいという決意も述べられておまして、そのことがとても重要だと思っております。道教委としても、色々な関係団体と協力して、副読本などを配布したりしていることは承知しておりますが、いわゆる副読本を読むだけ、お話を聴く、調べる、いわゆるインプットだけではなくて、リアルな声を通して話すとか、表現する、自分の言葉でアウトプットする機会を保障するということが、とても重要だと思いました。私としては、道教委としても、北方領土学習を含めた高校生が行う出前授業などについても、お金も必要なことではありますが、積極的に応援すべきと考えますが、道立高校における北方領土学習の推進について、道教委として、どのように取り組んできたのか改めて伺うとともに、今後、どのように取り組んでいくのか伺います。</p> <p>(指摘)</p> <p>弁論大会でもですね、高校生の方の最初のきっかけが、この「ジョバンニの島」を見たことだという弁論の事例もたくさんありましたので、地道な取組ですけれども、今後とも、引き続き、取り組んでいただきたいと思ひますし、いわゆる動画が、若い人に訴求はしますけれども、基本的にはこの「ジョバンニの島」も、元島民の皆さんの思いに寄り添った、そういうコンテンツをしっかりと関係部とも連携して地道な取組を続けていただきたいと思ひます。</p>		<p>(高校教育課長)</p> <p>道立高校における取組についてでございますが、各学校におきましては、地理歴史科の授業で、北方領土が我が国の領土として国際的に国境設定がなされたことや、領土問題が人々の生活に及ぼす影響などについて生徒が考察する学習を行っており、また、公民科では、我が国が、領土問題の解決に向けて平和的な手段で努力していることを、国家主権や国際法、国際機構の役割と関連付けて理解へとつなげる学習を行っております。</p> <p>授業以外では、例えば、毎年度開催されております「“北方領土を考える”高校生弁論大会」に、全道の公立・私立の高校から、過去5年間で約160件の応募があり、毎回十数名の生徒が大会本選に参加し、自らの言葉で北方領土問題に関する考えを発表するなど、全道各地に取組が広がっていると認識しております。</p> <p>さらに、根室管内では、根室高校の生徒による北方領土根室研究会が、北方領土の地理や歴史について、他校の生徒などに説明する出前授業を行うなどして、高校生自らが、若者世代の北方領土問題への関心を高め、理解を深める活動を行っております。</p> <p>(高校教育課長)</p> <p>道教委の取組についてでございますが、道教委では、これまで、公益社団法人北方領土復帰期成同盟と連携し、各道立高校等を会場として、北方領土を題材としたアニメ映画「ジョバンニの島」の上映を行ってきており、平成26年度から令和6年度までの11年間で、14管内24会場において、中学生や高校生など3,066名が鑑賞し、北方領土問題についての理解を深めてきたところでございます。</p> <p>道教委といたしましては、今後も引き続き、映画上映を通じた普及啓発の取組を継続するとともに、根室振興局北方領土対策課とも連携し、根室高校北方領土根室研究会による出前講座や学習会の取組を、道教委のウェブページや広報誌を通じて全道の高校に広く周知するなどして、北方領土に関する学習や活動の一層の充実に取り組んでまいります。</p>		<p>高校教育課</p> <p>高校教育課</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(三) 小中学校における北方領土学習について</p> <p>これも関係団体が主催しているものですが、中学校でも作文コンクールなどをやっております、必ずしも他の県と比較して北海道が頑張っているというところではないという指摘もです。ぜひ聞いていただき少し悔しい思いをしたことがあります。</p> <p>改めて伺いますけれども高等学校において北方領土学習を推進していくためにも、小・中学校段階での取組も重要であると考えますが、義務教育段階における北方領土学習の充実に向け、道教委では、これまでどのように取り組んできたのか。</p> <p>また、今後、子どもたちが北方領土問題について理解を深めるために、どのように取り組んでいくのか伺います。</p> <p>(指摘等)</p> <p>この北方領土問題のみならず、弁論ですとか作文など、ICT教育を推進することと並行してリアルなアウトプットということの表現の力をつけることが必要ではないでしょうか。</p> <p>ぜひ道内の作文とか弁論とかですね、あるところでは部活動とか研究会的にやられているということで授業以外になってきていると伺ったんですけれども、この作文ですとか弁論とかのですね、道内の取組状況や推進に向けた課題について、ぜひ把握とですね、今、北欧では逆にICT教育の弊害などが問題となって、改めて創造性を高めるにはどうしたらいいかということも研究されていると聞いておりますので、こうした弁論や作文においても情報を把握されるべきということをまず指摘をさせていただきたいと思います。</p> <p>また、新聞報道によると核廃棄物の最終処分場選定を巡り、いわゆるNUMOのみならず、経産省の幹部の方からも許しがたい発言があり、元島民のみなさんのふるさとへの思いを傷つけたことには大変強い憤りを覚えるものです。実は地域の中では今回新年会の席でも地域の世話役的な方からも、もう北方領土は戻ってこないだろうからそのために税金を使うのはいかかかというような問いかけをいただいたこともございました。私としては、国境線が確定していない中で隣接地域の人たちは産業振興・地域振興において様々な不利益を被っていますし、それだけではなく、知床世界遺産を含む貴重な自然環境の調査や先住民の歴史・文化に関する調査も滞っております、これは未来世代に対する大きな損失になっていることをその地域の中でお伝えをいたしました。単純に領土問題という切り口だけではなく、そこには戦争とソ連の不法行為によって奪われた人々の暮らしや素晴らしい自然環境があること、それが残念ながら中央政府の不作为によって今も解決に至っていないという事実とその影響をですね、今後の北方領土学習においてもしっかり伝える役割はですね、道教委にも期待もしまして、今回の許しがたい政府幹部の発言に強く抗議をいたしまして発言とさせていただきます。</p>	<p>(学校教育局長)</p> <p>北方領土に関する学習についてであります、道教委では、小・中学生が、北方領土への関心を高め、正しい知識を身に付けるための学習活動を行うよう、各学校に指導助言いたしますとともに、道立高校入試におきまして北方領土に関する内容が必ず出題されることを踏まえ、小・中学校等に配信している社会科の「チャレンジテスト」に北方領土に関する内容を毎回出題しております。</p> <p>また、北方領土の元島民によります講話等を通して理解を深め、平和的手段による解決に向けて考えを交流し合う学習などの実践例を、道内の小・中学校に周知してきております。</p> <p>今後は、これまでの取組を継続するとともに、道教委が作成した北方領土に関する学習の指導例を取りまとめた指導プログラムの更なる活用促進を図りますほか、知事事務局が児童生徒の領土問題への関心を高めるため実施しております「中学生作文コンテスト」や「北方領土に関するワークショップ」などにつきまして、更なる連携を図り、全ての小・中学校における北方領土に関する学習の充実に取り組んでまいります。</p>	<p>義務教育課</p>